

第6章 交流と活力のあるまちづくり

基本施策

- 1 農林水産業の振興
- 2 商業・サービス業の振興
- 3 工業・新産業の育成、振興
- 4 観光・交流の振興
- 5 雇用環境の充実

課題

- 農業の担い手を確保するとともに、耕作放棄地※の解消を進める必要があります。
- 地域資源を有効活用し、6次産業化や販売促進などに取り組むことにより、地産地消※やブランド化への取組みが求められています。
- にぎわいのあるまちづくりを進めていく必要があります。
- 磐田の魅力をPRし、たくさんの方が訪れるよう、市の知名度を向上させる必要があります。
- 企業需要に的確に応え、地域の活性化を図るため、新たな産業拠点の整備と企業誘致の推進が求められています。
- 地域の産業が時代の流れに対応し、活性化するよう、新たな産業の創出が必要となっています。
- 安心して生活できる雇用環境を整えることが求められています。

第6章

交流と活力のあるまちづくり

5年間に力を入れて取り組むこと

重点事業

33

農業の担い手を育成します

営農拡大者・新規就農者への農用地の集積や耕作放棄地※の再生利用を促進することにより、担い手の育成を支援します。

重点事業

34

福田漁港周辺に食の拠点づくりを検討します

福田漁港周辺において、磐田市の食材を生かした拠点施設整備に向けて、検討を進めます。

重点事業

35

6次産業化※を支援します

地域資源を活用した海老芋コロッケやスイーツなどの6次産業化や農商工連携事業を支援します。

重点事業

36

にぎわいのあるまちづくりを支援します

軽トラ市※や商店街におけるイベント開催を支援するとともに、空き店舗対策を実施します。

また、商品券事業※や磐田まちめぐりゼミナール事業※を行い、消費者の市内商店への回遊を誘引するなど、にぎわいのあるまちづくりを支援します。

重点事業

37

下野部工業団地などの開発を進めます

企業立地を推進するため、下野部地区に工業用地を整備するほか、遠州豊田パーキングエリア周辺地区への新たな工業団地の開発について検討します。

重点事業

38

スマートインターチェンジ※の設置を検討します

新東名高速道路の有効活用や地域経済の活性化を促進するため、新平山工業団地の拡大と併せ、新東名高速道路へのスマートインターチェンジ設置に向け、その可能性の調査・検討を進めます。

重点事業

39

新たな分野に挑戦する企業を支援します (次世代自動車・新エネルギー・スポーツ産業)

既存産業で培われた技術力や地域資源を活用し、次世代自動車・新エネルギー・スポーツ産業などの新産業の創出や創業に向けた取組みを支援します。

重点事業

40

磐田市の魅力を活かし、市の知名度を向上させます

市が持つ様々な魅力（観光資源、文化など）を市内外に効果的・戦略的に発信するため、磐田ブランドやイメージキャラクターを活用した情報発信力の強化などを行い、交流人口・観光客数の増につなげる取組みを進めます。

重点事業

41

安定した雇用環境の創出を図ります

雇用を促進するため、就職説明会などを開催し、雇用のミスマッチ解消など円滑な就職活動を支援します。



軽トラ市のにぎわい

第6章

交流と活力のあるまちづくり

基本施策

第6章 基本施策1 農林水産業の振興

施策と主な取組み

1 農業の担い手の育成・確保を推進します

1

本市の農業を支える人材・経営体を育成・確保するため、認定農業者*や農業法人など意欲のある農業者に農用地利用集積などの支援を進めます。
また、意欲ある農業者相互の交流を進め、事業の提携、新商品の開発、雇用の創出に向けたネットワークづくりを推進します。

2 農林水産資源の保全を図ります

2

耕作放棄地*の有効活用を図るため、営農拡大者・新規就農者へのあっせんや市民農園*の開設を支援します。
また、農業の生産性の向上を図るため、農道・用排水路の整備や排水機場の維持管理などの生産基盤の整備を進めます。
森林の多面的な機能の保全を図るため、森林の管理や林道の維持管理を行います。

3 農林水産資源の有効活用を推進します

3

福田漁港周辺への「食の拠点づくり」に向けて、県と連携した漁港広場の利活用について検討を行い、漁港施設の有効活用を図ります。
新たな地域資源の発掘、既存の地域資源の活用を図るため、地元の特産物を活用した海老芋コロケやスイーツなどの6次産業化*に向けた取組みへの支援や学校給食への利用拡大、市長のトップセールス*などにより、地場製品の知名度の向上を進めます。
また、より多くの市民などが農業・林業・水産業に触れる機会を創出するため、農林水産業に関するイベント開催への支援や食をテーマにした体験型観光や市民を対象にした着地型観光*（風土ツーリズム）を進めます。

協働の考え方

農地の保全や地元で採れた農産物や水産物の消費やPRに努めます。

市民

地域農水産物の積極的な活用に努めます。

団体・事業者

農林水産業者・市民・関係団体・事業者が連携・協働できる環境づくりを進めます。また、その活動を支援します。

行政

第6章 基本施策2 商業・サービス業の振興

施策と主な取り組み

商店街の魅力づくりを支援します

1

中心市街地や各地区の商店街の活性化を図るため、商工団体などと連携して、軽トラ市*などの集客イベントの開催を支援します。
また、起業体験を通じた将来の人材育成と商店街のにぎわいや話題づくりのため、空き店舗を活用した学生や起業者によるチャレンジショップ事業*など空き店舗対策を進めます。

やる気のある個店の発掘・集客を支援します

2

やる気のある個店への集客を図り、市内消費を拡大させるため、磐田まちなめぐりゼミナール事業*や磐田市コミュニケーションセンター*を活用した情報発信などを進めます。
また、消費者の市内の商店への回遊を誘引していくため、磐田まちなめぐりクーポン*の活用や商品券事業*を実施します。

磐田の魅力を活かし、市の知名度を向上させます

3

市が持つ様々な魅力（観光資源、文化など）を市内外に効果的・戦略的に発信し、交流人口・観光客数の増につなげるため、マスメディアやイメージキャラクターを活用した情報発信力を強化するなどの取り組みにより、市の知名度を向上させます。
また、磐田特有の商品や特産品を厳選して認定し、「磐田ブランド*」としてのPRと販売促進を行い、認定事業者を支援します。

協働の考え方

商店街や地域の小売店ならではの魅力を理解し、できる限り、地元小売店で購入します。

市民

市内消費の拡大を進めます。また、商業主は、個性のある店づくりを進めます。

団体・事業者

関係機関と連携し、事業者への支援を行います。

行政



磐田市イメージキャラクター

ひっぺい

平成24年1月に誕生した磐田市イメージキャラクターの名前。プロフィール：誕生日：平成24年1月20日、♂、趣味はまちづくり・スポーツ観戦、仕事は、磐田市のPR

第6章 基本施策3 工業・新産業の育成、振興

施策と主な取組み

中小企業の育成・振興を図ります

1

中小企業の新製品や新技術の開発を推進するため、ビジネスマッチングの機会提供や販路及びビジネスパートナーの開拓を支援するとともに、市域を越えた広域的な連携に取り組めます。

また、産業振興に関する情報収集や商談、製品展示ができる新たな産業拠点施設の整備について検討します。

企業誘致と新産業の育成を推進します

2

企業立地を積極的に推進するため、下野部工業団地の開発を進めるとともに、新東名高速道路へのスマートインターチェンジ*設置の可能性や新たな工業団地（新平山工業団地周辺・遠州豊田パーキングエリア周辺）の開発を検討するなど、立地環境が整った工業用地開発を推進し、企業誘致を進めます。

また、次世代自動車や新エネルギー、スポーツ産業などの新たな産業を生み出し、育てていくため、産学官の連携による広域的な協議会へ参画し、新たな事業形態の創出や商品開発への取組みを支援します。

地場産業の振興を図ります

3

高品質で付加価値のある産地固有商品の販路拡大を支援するため、関係機関と協力し、コーデュロイなど繊維製品のPR活動を推進します。

また、新たな地場産業の育成・発掘を行います。

協働の考え方

勤労者としての資質の向上や自己啓発に努めます。

市民

経営の安定化を進めるとともに、新技術・新製品の開発に努めます。

団体・事業者

関係機関と連携して事業者への支援を行うとともに、工業用地を確保、新産業の創出を推進します。

行政

第6章 基本施策4 観光・交流の振興

施策と主な取組み

1 観光の魅力を市内外に発信します

市内を訪れる観光客数の増加を図るため、既存の観光資源を有機的に結びつけた観光ルートの設定や案内看板を整備するとともに、周辺市町と連携し、それぞれの観光資源を結びつけた広域観光ルートの設定を検討します。

また、イメージキャラクターの活用や磐田市コミュニケーションセンター※の情報発信などの機能を強化し、磐田の魅力を市内外へと発信します。

2 観光推進体制の充実を図ります

観光事業の推進を図るため、磐田市観光協会の体制強化や磐田市観光案内所の移転により案内・情報発信力の強化を図るとともに、観光ボランティアガイドなど市民団体との連携を強化し、市民がおもてなしの心で観光客を迎えることができる体制づくりを推進します。

3 産業と観光の連携を進めます

地域資源を活かした着地型観光※を推進するため、歴史や文化を巡るウォーキングをはじめ、製造業や加工業など、市内の工場への見学ツアーや農林水産物などの食をテーマにした参加・体験型ツーリズムを実施します。

また、プロスポーツ観戦、アマチュアスポーツの大会や合宿など、様々なスポーツイベントを利用し、飲食や宿泊など広範囲な産業振興を図ります。

協働の考え方

まちの魅力や良さを再発見し、積極的なPRに努めます。

市民

地域の特性を活かした観光事業に取り組み、市内外に向けたPRや観光客のおもてなし体制の強化を進めます。

団体・事業者

市民・団体・事業者などの取組みへの支援を行うとともに、ネットワークの構築や情報発信を進めます。

行政

第6章 基本施策5 雇用環境の充実

施策と主な取組み

安定した雇用環境の創出を図ります

- 1 雇用を促進するため、新卒者、既卒者及び失業者を対象とする就職説明会を開催し、情報などの提供をするとともに、雇用のミスマッチ解消など円滑な就職活動を支援します。
また、労働条件の改善や就労・生活・住宅など労働者を取り巻く悩みの相談や、就職希望者へのアドバイス及び専門窓口への紹介を行う相談事業を実施します。

勤労者の福利厚生 of 充実を図ります

- 2 中小企業の勤労者の福利厚生 of 向上を図り、雇用の拡大につなげるため、財団法人磐田市勤労者福祉サービスセンター*の運営を支援します。
また、勤労者の住宅取得やその子どもなどが教育を受けるための資金を支援する貸付制度を実施します。

将来のものづくりを支える人材を育成します

- 3 産業の更なる活性化を図るため、小中学生を対象に、勤労観・起業家精神を育むことができるよう、現役経営者を講師として派遣する講座を開催します。
また、ものづくりの楽しさ、素晴らしさを体験し、将来、技術者を志す子どもを育成するための事業を実施します。

協働の考え方

就職支援セミナーなどへの積極的な参加に努めます。

市民

就労困難者の受け入れなど積極的な雇用支援に努めます。

団体・事業者

求職者の就業支援や勤労者が安心して働ける環境整備への支援を行います。

行政

第6章

交流と活力のあるまちづくり

指標・目標値 一覧

基本施策1 農林水産業の振興

指標名	策定時 (H19)	現状 (H22)	目標値 (H28)	指標の定義
農用地に占める担い手の利用割合	35%	40%	48%	認定農業者*などの担い手による農用地利用面積／農用地面積
農用地利用集積事業実施面積	1,177ha	1,507ha	1,750ha	農用地利用集積事業による集積面積
耕作放棄地*の面積	- ha	135ha	100ha	農地利用状況調査（耕作放棄地全体調査）による面積

基本施策2 商業・サービス業の振興

指標名	策定時 (H19)	現状 (H22)	目標値 (H28)	指標の定義
小売業*の年間販売額	133,673 百万円	141,722 百万円	155,894 百万円	商業統計における小売業の販売額／年

*商業統計は、商品の流通の状況やその仕組みなど、商業活動に関する統計。経済産業省が調査し、本調査は5年に一度実施（本調査の2年後に簡易調査を実施）

基本施策3 工業・新産業の育成・振興

指標名	策定時 (H19)	現状 (H22)	目標値 (H28)	指標の定義
製造品出荷額等*	207 百億円	162.1 百億円	299 百億円	工業統計調査における製造品出荷額等／年
従業員一人当たりの製造品出荷額等	52.5 百万円	44.4 百万円	71.2 百万円	工業統計調査における従業員一人当たりの製造品出荷額／年

*工業統計調査は、「製造業」を対象として、毎年末（12月31日）現在の事業所数、従業者数、製造品出荷額などを調査する工業に関する統計。

基本施策4 観光・交流の振興

指標名	策定時 (H19)	現状 (H22)	目標値 (H28)	指標の定義
観光交流客数*	291万人	330万人	350万人	市内イベント・各観光関連施設などへの入込み人数／年

基本施策5 雇用環境の充実

指標名	策定時 (H19)	現状 (H22)	目標値 (H28)	指標の定義
職業相談*の利用者数	329人	380人	400人	職業相談の利用者数／年
就職説明会への参加企業数	-	38社	50社	就職説明会への参加企業数／回

特産物を使った新たな取組み



漁港を中心とした食の拠点づくり



海老芋コロッケ